

平成 28 年度第 1 回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成 28 年 7 月 21 日（木）

会 場：北海道立図書館 会議室

出席者：協議会委員 9 名、道立図書館職員 11 名

傍聴者：1 名、（その他、道通記者 1 名）

議事等

1 議題

（1）平成 27 年度業務実績について

2 その他

会議概要 （○～委員の発言 ●～道立図書館職員の発言）

（開会前）4 月 1 日付けで異動した道立図書館職員の紹介

1 議題

（1）平成 27 年度業務実績について

伊藤利用サービス部長説明・・・資料「平成 27 年度業務実績報告書」参照

P3 （イ）管内図書館振興団体支援

P4 （イ）図書館設置の促進

○ 図書館のあるところとないところの赤と白のさっきの地図（パワーポイント資料：図書館設置状況を市町村毎に色分けした地図。図書館設置は赤、未設置は白で表示。）をみると資料で地域・振興圏によって少ないところとかありますね。

目標の例えば、管内の図書館振興団体支援というのが目標 14 地域で、前年から比べると 6 から 10 に増えてます

けれど、14 地域全部がやれないというのは、例えばそういうことと関わっているのでしょうか。

● その地域で図書館ないしは図書室で集まって研修会を開こうという最初のアクションがなければ、こちらとしては行くことができません。

○ そうすると、あの白いところはそういう動きがやっぱりどうしてもない訳ですよ。

● 動きはあります。少し白いところが目立つ地域はありますが、やってはおります。

例えば、当該地域の研究協議会で一度中断して、一昨年発足し直したという経緯もあって、申込みも中断していたところもあります。

- 4Pの図書館設置の促進のところで、今検討している市町村というのをどの程度把握しているのでしょうか。
- 足寄町と今金町の2町が今検討を進めているということ、あと管内の図書室でもほとんど図書室と変わらないような設備をもっている図書室がかなりあるのですが、図書室を図書館にするためには条例を作らなければならないという、そのあたりが町の方でネックになっておまして、なかなかいい立派な施設をもっているのに図書館になれない、図書館にしていないという町がいくつかあるんですけども、そういうところにつきましては運営相談等で行ったときに、担当の方から図書館にさせていただくようお願いしているところでもあります。
- 支援を強化するというのは、今おっしゃったように図書館並みの活動をなさっているから条例設置に向けての…。
- そうですね。運営相談等で訪問をしたときに、促進パンフレット等を使いながら担当の方でお願いしてきているというところがございます。
- 条例をつくることを躊躇しているということは、司書とか協議会とか、そういうことですか。
- 小さな町の教育委員会というのは少ない人数で、いろいろな仕事をやっておられるという事情がありまして、例えばひな形等をお示ししてもなかなか手が回らないというのも一つの理由と、条例ですので、議会で承認を得なければならないですので、そのあたりが躊躇される部分ではないかなと考えております。
- 一旦図書館になってしまった後、協議会を設置したりとか、司書を置かなければいけないとか、その後の手間を恐れているというよりは、入り口のところからということですね。

そこを乗り越えてしまえば、後の手間的には現在の図書室の運営とそう大きくは変わらない。そこを乗り越えることができれば、設置率が増えることは期待できるということですね。
- そのあたりが難しいところ、ご理解いただけないところということでございます。痛し、痒しというところで。

- 実際には、図書室が館になるということがどんなところが良くなるのかということが、残念ながら理解していないということになるんですね。
- せっかく目標として掲げているわけですから、むしろ支援を強化するといっている限り、各自治体の動きを尊重しなければならないというのがあるにせよ、何かやりようがないのでしょうか。
- 小規模町村の図書館の場合は、実際のことをいいますと、条例の問題です。
大半は総務部門で各種の条例をやっていますので、そちらに理解を求めれば実務上はうまくいくのではないかと。参考までの話です。
- 総務の、むしろ町全体の理解がないと難しいということでしょうか。
- モデルケースとしてうまくいった事例を紹介したら、自分でもできそうと思う市町村がでてくるかもしれないですね。
- そういういいモデルケースがあるかどうか調べて、あれば情報をすぐに発信してまいりたいと考えております。
- 今の話の中で、町村の図書室が我々の考えている図書館と遜色のない立派なものもあるということですが、そういう図書室を把握していますか。
- 実際に運営相談等で職員が行っていますので、そのときに状況等を見てきています。
- 私は図書館、図書室のちがいというよりも地域の方たちが、運営とかに参加できて、図書館や図書室が地域みんなのためにあるというような関わり方ができているかどうかということがすごく大事なんじゃないかって思います。つながる図書館という…。
- そうであれば5カ年計画は図書館設置率という形で、その率で計算していますが、次の5カ年計画というものがあるのであれば、尺度をちょっと変えて地域と密接した活動のなかで広がっていくことがどのくらいあるのかっていうような、違う尺度で成果を測っていくこともありなのかもしれない。
- そうですね。この計画がおわるのが29年度ですので、30年度から、来年は本格的にこの協議会の場でも計画をご審議いただくような形になります。
そのときの目標指標等もご議論いただくことになりますけれども、そういうところもいろいろ参考にさせて、今後策定の作業のときにご意見いただきながら作業を進めていきたいと考えております。

- レファレンス協同データベースの成果は素晴らしいと思っていて、例えば、道立（図書館）が登録したレファレンスの閲覧が何回ですと統計がでてくるということですか。
- はい。参加館がそういう統計情報とか地元で統計を見るような形のシステムっていう部分です。昔からです。
- 是非数値をちゃんととっていただきたいです。11万件ってすごいことだと思います。統計の取り方で北方資料系の統計は何件とかそういう取り方はできるのですか。
- 一つ一つ登録内容ごとに出てくる。今回ご紹介したリタさんの話（NHKで放映された「マッサン」に関して）とかは非常にアクセス件数の高いものとしてご紹介しているものです。
- 昨年、札幌市が新しい図書館を作るにあたって札幌近郊に住んでいる人達に対して、札幌の魅力を発信する図書館と言ったときにどういったものを揃えてほしいかというアンケート調査を行った。私は札幌の魅力を発信する充実した図書館のコレクションというと、食べ物とか温泉とかそんな感じのイメージを持っていたのですが、結局住民の中で答えが一番多かったのは、札幌の歴史を揃えてほしいというニーズでした。

北海道に住んでいる人たちにとって、北海道の歴史というものがすごく大切なものなんだって改めて認識しました。その意味でも北方資料はものすごく大切な道立（図書館）の仕事の核になると思っています。

北海道に住む人たちが自分の生活を考える、今の町づくりを考える、あるいは将来を考えていくときの未来世代の子どもに何を残していくのか考えていくときのすごく重要な、すごく大切にしなければいけないコアのサービスになると思っています。

これだけ価値があるよっていうのを内外にアピールする時の一つの指標になるのが、レファレンスで、こういうレファレンスが来ています、それが国会のレファレンス等のデータベースの中に登録されていて、全国からこれだけ閲覧されています、っていう指標が使えると思っています。

レファレンスの質の高さは、証明することがすごく難しい。

単純に件数だけ数えようと思うと答えることに簡単な事は件数が上がるが、じっくり、しっかり調べたものを評価してもらえる、それを数値化して内外に自分たちのレファレンスの価値を認めてもらえるってとても難しい指標ですけど、公開レファレンスの閲覧件数って、こんな指標があったのかって、改めて思いました。

これは是非アピールに使ってもらって、より良いサービスにつなげてもらったらとも思います。
- 今日は議題が1つあって、少し時間的余裕がございますから、いかがですか。

P43 2 資料の収集

- 43 ページの中程に貸出文庫の資料という部分で、26 年度から購入していませんが、貸出文庫というのは読書会への支援ですか。
- はい。10 冊セットで主に文芸書などを揃えておりまして、所謂読書サークルなどからの申込みに対して、町の図書館を通じてご利用いただいているというところがございます。
- 読書会、読書グループへの支援も。
- 既存のセットについてはどんどんご利用いただいている状況であります。新規にはどういっものを揃えていったらよろしいのか検討しているという状況です。
- 例えば、最新刊の大ベストセラーを 10 冊買ってという形にはなりにくいということもありますので、評価の定まったものをということで、1 年少し前のものとか、そのもう少し前のものをみんなで読む、いろいろと味わう。
といったそのような本を、これまで買って来たという経緯があります。
一方で、子どもの読書とかさまざまな分野にも事業費をかけていくために、去年はそちらを優先し、「貸出文庫資料の資料整備」の方向には行きませんでした。
- 読書サークルへの支援が中止になっているのではないのですか。
その蔵書のリストみたいなものは整備されていますか。
- 図書館・図書室には周知しております。
- 地元で読書会とかしようと思いましたが、本が集められないという状況がありましたので、お尋ねしましたが（状況は）わかりました。
- 実際、27 年度の貸出文庫につきましては、1,487 冊の貸出になっていますけど、10 冊ずつといたら結構なセット数としていっている、ご利用いただいている状況です。
- それは一般の道民は何か検索する手段はあるのですか。
- それは地元の図書館・図書室を通じて、地元の読書グループの方々にお貸しできる方式をとっています。一般の方は直接検索したり…。

- 例えばAというタイトルを道立がセットで持っているので、利用したい場合は地元の図書室を通じて借りるということですね。
- 一般の方はまず、地元の図書室・図書館にご相談いただいて、求めているタイトルがご自分の町で借りたいものはこういったものがあって、ご利用いただけるという状況です。
- 地方のニーズがあるのかということと、そういう企画のものが丁度タイミングよく出て活かされているか、そのこととの関わり、ということでしょうね。
- 最近の話ですが、図書館が書店との連携を進めていく事例が増えてきている。潰れていく書店が全国的に多くて、図書館と書店は敵対しているように見られるがちな部分が一部ある中で、むしろ地元の文化を守るためには書店も育てていこうと、図書館が地元の書店から本を買い上げる仕組みを作ることによって書店も生き残っていける、そして図書館もっていうお互いに反映していこうっていう仕組みを作っていこうという動きがあるのですが、そういう動きは北海道にはあるのでしょうか。
- 多くの町では、基本的には自分の町の書店から買うという例が多いと思われます。
ただ、小さい書店からの納品には時間がかかるということもあって、大手の書店とかの類いのところへある程度発注するが、雑誌だけは地元で書店から買うなど、そういう切り分けをしているところもあります。
- 地元出店にしちゃうかね。1995年に北海道書店組合の……、売れ残った雑誌を返品するときにわざわざ東京に送り返さないで道内でリサイクルするっていうことと、週刊誌の発売日を少なくとも北海道は一本にするっていうそういうことをやると同時に北海道の書店がどうなっているかっていうことを調べるということだったのですが、そのときを中心になった書店はもうみんなありません
オホーツク管内でまちの図書館が地元の書店をすごく応援しながらやっていたっていう経緯があったのですが、地元図書館との関係はよかったですけど、むしろ地元の書店自体がどうにもならなくなった。
- 地元の書店がなくなると、今度は地元の出版そのものが廃れてくる。
- 一番大変なのは出版元で、本屋が次に厳しくて、その次が図書館で。
- 大手のところから買うのをやめ、地元の書店から買う、本の整理を福祉施設が請け負うというそんな事例もあったかと思います。

北海道は土地も広いし、なかなか大変だとは思いますが、地元の文化を守り育てていくという意味で、書店、出版社等も視野に入れた連携があってもいいかなって思いますね。

- 去年まで札幌市の中央図書館の協議会でいっしょにやっていた方との話ですが、そのとき本屋と図書館が共生する町ってどういうことかって、そんなシンポジウムやってみようという話が持ち上がりました。

結局できなかったが、そういうことはすごく大事だと思います。

- 私の住んでいるところでは、町内に書店が2つありそこを通してそのような形でやっていたのですが、そのうち名前は書店になっているけれども本は取り扱いがないという状況になってきました。

図書館の場合は大手のところから一括（発注）していますが、（私の地元では）地元の書店を経由する形、装美とかもしていただくという形になっている。何年か書店がない状況が続いていましたが、書店の社長さんとかが来て講演をやって、例えばテナント料がかからなければ500万ぐらいで書店はできるという講演をやったりして、地元でも協力して六畳書房ができたのですが、やはりそこが大変になって週1回の営業になった。

しかし、そのうち撤退した書店が1つ戻ってきて、現在、六畳書房さんは本来の役目は一応終えたかなということで、活動は休止している状態です。書店があれば、本を買わなくても書店に行くだけでもたくさんの情報が入ってきます。本屋さんがないということは、地域の人がそういう情報に触れることができないということになると思います。やはり公共の図書館ががんばらなければならないと思いました。

先ほどの講演ではたくさんの方が来てくださって、こんなに本について興味をもっていらっしゃるって、やはり本屋さんが欲しいってみんな思っていると感じました。

本屋さん和図書館は決して競合するライバル関係ではなく、手に入れたい・自分で読みたい本という本は手元に持っていたいと思うし、本は図書館から借りるのではなく自分で欲しいと思ったときに地元の本屋さんがあることが大切と思っている。

現在1つ書店が戻ってきましたので、今すごくいい状況かなと思っています。

- 大変今日は勉強になりました。それでは、他になれば第1の議案は終わって、その他の議案で、事務局からの説明となりますが、よろしいでしょうか。

2 その他

(1) 90周年道立図書館まつり

- それでは90周年の道立図書館まつりについて、ご説明します。お配りしています橙色の資料一枚のものの裏表をご覧いただきたいと思います。今月の30、31日の土・日の2

日間、大正 15 年に開館して 90 周年にあたるということで、90 周年の道立図書館まつりを開催いたします。一番上にあります、「ワクワクおはなしライブ」「ちょこっとお見せします。mini 書庫ツアー」「見て！大型えほん」のこの部分とその下の「ブックシェアであなたの本を届けよう」、「道立図書館のあゆみパネル展」、これらにつきましては 2 日間共通のイベントとなっております。その下の方には、30 日、31 日と日付が付されているのはその日のみの開催というものになってございます。

丁度、大正 15 年に開館した時の建物が、現在お菓子屋さんの「北菓楼」札幌本館になっているという経緯もございまして、今回「北菓楼」さんの方にお問い合わせしたところ、このまつりに合わせまして 30 日土曜日には札幌本館でしか売っていないチョコサンドクッキー「北海道廳立図書館」という名称のお菓子を、当館で特別に販売するというようなことになっております。

事業内容につきましては、「ワクワクおはなしライブ」は江別市にあります風の子文庫の片桐さんによるお話、それとは趣がかわるかもしれませんが、道立図書館の男性職員、女性職員によるそれぞれの読み聞かせ又はエプロン劇場というものでございます。

「ちょこっとお見せします。mini 書庫ツアー」につきましては、通常ある程度の時間を設定しまして書庫内をご案内してありますが、このまつりの時は短時間でコンパクトな形のご案内というような書庫ツアーを予定してございます。

大型えほんにつきましては、先ほど大型えほん 100 というのをご紹介（議案 業務実績）しましたが、そのような形で大型えほんをご覧いただくということでございます。

「ブックシェアであなたの本を届けよう」は北海道ブックシェアリングさんに御協力いただきまして、毎年前庭を利用して本集めをしていますが、今回はそれをまつりの時期に合わせて行っていただき、またさらに当館の市町村支援資料である程度年数を過ぎたものもリサイクル図書として活用するというようなコーナーでございます。

「道立図書館のあゆみパネル展」につきましては、90 年のあゆみの写真を拡大するなどしてエントランスホールでパネル展示をするものでございます。

「楽天いどうとしゃかん」につきましては、北海道と包括連携協定を結んでおります楽天がミニバンの移動図書館車を運行してございまして、電子書籍の体験ですとか、絵本など子どもの本も積んで、前庭で店開きをするというものでございます。

記念講演会につきましては、元江別の図書館長でありました佐々木 孝一さんにお問い合わせしてございまして、(道立図書館は)昭和 42 年に札幌から江別に移って参りましたが、その当時の大麻地区の様子なども含めまして、お話をいただく予定になってございます。

サイエンスカーにつきましては、今年隣の教育研究所の理科教育センターでサイエンスカーを更新し新しくなっておりますので、そのサイエンスカーを前に横付けして実際その中で見ていただけるような実験器具、実験内容も理科教育センターの職員が実際に操作などをして、ご覧いただけるようにするというものでございます。

ペットボトルロケット、これは裏庭の方の芝生でペットボトルに自転車のポンプで空気を入れて水と空気で、ペットボトルを飛ばすという、ホリエモンの大樹町の事業とかも話題になってございまして、体験教室ということで夏に合わせて涼しげな体験教室を

開催するというものでございます。

「読んで！理科読おすすめ本」は先ほども地下歩行空間で広げてやりました理科読本をサイエンスカーと併せて、展示して見ていただくというものです。

「ぶっくん」 in 道立図書館では、着ぐるみの「ぶっくん」に登場してもらい、子ども達と一緒に写真撮影などをするという事業でございます。

以上、30・31日に開催しますので、是非お誘い合わせの上、ご来場いただきますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

(2) 読書活動充実事業

(3) 第58回北海道立図書館大会

- それでは、読書活動充実事業を説明させていただきます。本事業は先ほどから出ておりますけれども、図書館や書店のない地域、僻地の小・中学校におきまして、手描きPOPの作成やビブリオバトルなどの読書活動の体験教室を通じ、本の内容を伝え合う手法を習得させるとともに読書に対する興味・関心を高め、地域における読書活動の推進を図るという内容のものでございます。

平成27年度から平成29年度までの3カ年事業であり、昨年度は8校で実施しております。今年度は21町村、24校で実施予定となっております。

事業の流れでございますけれども、1ヶ月前に図書館の方から学校に図書を送付し、子ども達は好きな本を選んで読んでおきます。

事業当日、道立図書館職員が講師となりまして、POPづくりやビブリオバトルを行うというような内容になっています。

事業終了後は作品を学校内や公民館に展示してもらおうというような内容となっております。

先ほども説明しましたとおり10管内21町村24学校で、実施して参ります。

すでに本日7月21日、喜茂別中学校で実施しておりますけれども、そこを含めてすでに3校実施しております。

今後、21校ありますけれども、本庁・教育局・開催町村・学校等と連携して、より良い事業になるよう取り組んで参りたいと考えております。

続きまして、A3版の「第58回北海道図書館大会」開催要項をご覧ください。

まずはじめに趣旨でございますけれども、本大会は本道の図書館職員等が一堂に会しまして、今日的課題について研究協議を行い、共通理解を深め、図書館活動の充実と発展に寄与するというような内容にあります。

今年度は「新しい力を持つ図書館 ～社会生活におけるパートナーとして～」というテーマで実施して参ります。

主催は北海道図書館連絡会議と北海道立図書館という形になっております。

開催期日は9月8日から9月9日までの2日間であり、会場は北星学園大学、例年200

名ほどの参加者がございます。

1日目の特別講演は、鈴木 亜由美さんをお願いしております。

鈴木さんは現在NHKの大河ドラマ「真田丸」に出演しています俳優の大泉洋が所属する株式会社クリエイティブオフィスキューの代表取締役でありまして、「北海道の魅力再発見と発信」と題しまして経営者、プロデューサーとして北海道の食文化を創出・発信する事業などを通じての地域貢献などのお話をさせていただくことになっております。

また、第1から第6までの分科会を設置しまして実践事例の発表や研究協議などを行う内容となっております。

申込み・締切は8月26日までとなっておりますので、ご都合がございましたら是非参加していただければと思います。

私の方からは以上です。

○ ただいま、利用サービス部長から1つ、総務企画部長から2つ説明がありましたけれども、質問があれば。

○ 読書活動充実事業、キーワードがいわゆる「子ども」という観点で図書館、町教委ですとかともにされていることに、素晴らしいことだと思います。

教育の場では、子ども達がこれからの新しい学習指導要領を見据えた中で求められているものとして課題探求的な学習と実社会に生きるというところがあります。

そういう意味でもPOPを作る、あるいはビブリオバトルは非常に有効だといわれていますが、特にPOPについては先行実践が結構あります。

例えば札幌市の中学校などで、実際にPOPを書店さんに置いていただいている。

そして中学校の生徒が薦めている本ですよ。そうすると子ども達の意欲の喚起とかモチベーションも相当違ってくる。

書店のないあるいは図書館のない地域の子子ども達を対象とした事業ということですが、もし可能であれば、地域の、管内の大きな書店、大きな都市の、例えば函館の個々の書店に実際に置いてもらえるよ、とか。そういうようなものになっていくといいかなあと、そんな印象を受けましたので、もし可能であれば、そんなことも含め検討していただければと思います。

● 事業の流れにありますとおり、成果物の展示等をやっていくということになっていきますので、職員が行ったときに、いいもの等ができればそういう場もあると学校の方にご紹介していきたいと考えております。

○ ほかにございませんでしょうか。ございませんでしたら、以上で予定されていた議題の審議を終了したいと思います。よろしいでしょうか。

今日はどうもありがとうございました。

- 委員の皆様、ありがとうございました。
それでは、館長から閉会の挨拶を申し上げます。

閉会挨拶

●館長

第1回北海道立図書館協議会の閉会に当たりまして、御挨拶を申し上げます。

ただ今委員の皆様から御挨拶いただきましたけれども、これまで2年間に亘りまして、図書館行政を行うに当たりまして、多様な角度から大変貴重な御意見をいただきましたことに、深く感謝申し上げる次第でございます。

委員の皆様からは、開架書庫の拡大ですとか、また今日の資料につけさせていただきましたが業務実績の運営計画の経年変化を捉えた進捗状況の評価の取組など、利用者のサービス向上につながる様々な有意義な御意見をいただいているところであります。

また、今日の協議会で多くの御意見をいただきました。

道立図書館といたしましては、今後とも図書館のセンターとしていわゆる「図書館の図書館」、それから参考図書館といたしまして「何でもわかる図書館」、そして全域サービスの図書館として、「道民みんなの図書館」と3つの運営方針に基づきまして、図書館機能の充実に努めまして、広く道民へのサービス展開を目指して参りたいとこんなふうを考えております。

今期の協議会ということで申しますと、今日が事実上最後の会議となりましたが、委員の皆様には、これからもそれぞれのお立場でますます御活躍されることを御祈念申し上げますとともに、私ども図書館行政につきましても変わらぬお力添えを賜ればと、このように思っております。

これまでの御協力、御指導を心より感謝申し上げます閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

(資料配付のみ)

- ・北方資料デジタル・ライブラリーのご案内
- ・2016 ほっかいどうの教育